

平成21年度  
「教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価」  
に関する報告書  
(平成20年度事業対象)

平成21年11月  
鴻巣市教育委員会

## 目 次

. はじめに	1
. 点検・評価の基本方針	1
. 「第5次鴻巣市総合振興計画」の政策3「心ゆたかできめきのあるまちづくり(教育・文化の振興)」における施策と指標の関係	1 ~
. 5 施策の点検・評価の結果	
施策1：学校教育の充実	3
施策2：生涯学習の充実	4
施策3：スポーツの振興	5
施策4：市民文化の創造と交流の促進	6
施策5：人権尊重の推進	7
. 結びに	8

## はじめに

平成19年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、平成20年4月から、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することになりました。

この報告書は同法の規定に基づき、平成20年度に鴻巣市教育委員会が行った事務についての点検・評価結果をまとめたものです。

## 点検・評価の基本方針

### 1 目的

教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況を自ら点検評価を行い、その結果を議会に報告するとともに広く市民に公表することになりました。

これは、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たしていくことを目的としています。

### 2 点検・評価の対象及び方法

本市の教育行政の主要施策については市政運営の基本となる「第5次鴻巣市総合振興計画」に掲げられています。総合振興計画は合併後の市内の均衡ある発展と速やかな一体性の確立を図るため策定され、7つの政策、33の施策、112の基本事業からなり、それぞれ具体的な成果指標を設定し、評価・見直し・公表を行っていくという行政評価の手法を取り入れています。

従って、この振興計画に掲げられている教育委員会の施策を対象とし、その指標の達成状況の把握を参考にしながら、平成20年度の取組みについて点検・評価を実施しました。

なお、この点検・評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用することといたしました。

## 「第5次鴻巣市総合振興計画」の政策3「心ゆたかでときめきのあるまちづくり（教育・文化の振興）」における施策と指標の関係

今回の点検・評価に当たっては、総合振興計画の政策3における教育委員会各課・館の5施策、16の基本事業を基に実施しました。16の基本事業には目的達成度を示す指標として36の成果指標がありますが、今回は、施策ごとに総合評価という観点で点検・評価を行ないました。

点検・評価を行った施策と、それぞれの基本事業・成果指標の関係は次のとおりです。

## 教育委員会が取り組んでいる 5 つの施策と 16 事業

施 策 名	基本事業名	基 本 事 業 の 成 果 指 標
<b>1 . 学 校 教 育 の 充 実</b>  主管課：学校教育課	(1)確かな学力の向上 ( 学校教育課 )	・学習に対する意欲の割合 ・学習テストの成果
	(2)心の教育の推進 ( 学校教育課 )	・規律ある態度の児童生徒の割合 ・不登校児童生徒の割合
	(3)健康・体力の推進 ( 学校教育課 )	・健康な生活を送っている児童生徒の割合 ・新体力テストの県平均を上回っている種目の割合 ( 小5・中2 )
	(4)小・中学校施設の整備 ( 教育総務課 )	・施設維持管理上の不具合による教育支障件数 ・小・中学校の耐震化率
	(5)学校を核とした教育環境の整備 ( 学校教育課 )	・地域とのふれあい事業参加者数 ・学校評議員に公開した教育活動数 ・学校支援ボランティア数
<b>2 . 生 涯 学 習 の 充 実</b>  主管課：生涯学習課	(1)生涯学習の推進体制の整備 ( 生涯学習課 )	・生涯学習事業に対する満足度 ・文化団体加入者数 ・文化団体数
	(2)公民館における学習機会の提供 ( 公民館 )	・公民館利用者数 ・生涯学習講座参加者数
	(3)図書館の利用促進 ( 図書館 )	・貸出冊数 ( 点数 ) ・図書館利用者の満足度
	(4)生涯学習施設の維持・整備 ( 生涯学習課 )	・生涯学習施設の不具合による利用支障件数 ・生涯学習活動の場・施設が充実していると思う市民の割合
	(5)青少年の育成支援 ( 生涯学習課 )	・青少年健全育成活動の参加者数 ・こども会等団体の会員数
<b>3 . ス ポ ー ツ の 振 興</b>  主管課：スポーツ課	(1)スポーツする機会の提供 ( スポーツ課 )	・スポーツイベント・教室参加者数 ・スポーツイベントの機会が十分だと思ふ市民の割合
	(2)スポーツ施設の整備と有効活用 ( スポーツ課 )	・スポーツ施設の利用状況 ・スポーツの場・施設の充足度 ・スポーツ施設の不具合による利用支障件数
	(3)指導者・団体の育成と活用 ( スポーツ課 )	・スポーツ指導者登録数 ・スポーツ団体登録者数 ・総合型地域スポーツクラブの設立
<b>4 . 市 民 文 化 の 創 造 と 交 流 の 促 進</b>  主管課：生涯学習課	(1)伝統文化の保護・継承 ( 生涯学習課 )	・市内の指定文化財を知っている市民の割合 ・文化財貸出点数 ・保存・修復済指定文化財の延べ件数
	(2)芸能文化の振興 ( 生涯学習課 )	・クレーこうのす文化事業参加者数 ・公民館での芸術文化事業参加者数
<b>5 . 人 権 尊 重 の 推 進</b> 主管課：やさしさ支援課	(2)学校人権教育の推進 ( 学校教育課 )	・相手の気持ちを考え、やさしい言葉遣いができる児童生徒の割合

施 策	1 学校教育の充実
施策の対象	児童・生徒
施策の意図	豊かな心と創造性を持ち、はつらつとした学校生活を送っています。

成 果 指 標	単位	初期値	19年度	20年度	H23めざそう値	成果状況
学校生活を楽しく送っている児童生徒の割合  (学校教育課)	%	59.6	71.2	60.2	↗	×
	<b>20年度の主な取り組み</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数指導加配教員の配置（全小・中学校1～2名）による習熟度別学習等の実施</li> <li>・いきいき先生（全小・中学校1～3名）日本語指導員、特別支援教育指導員の配置による個に応じた指導の実施</li> <li>・「特色ある学校づくり」事業「学校花いっぱい運動」事業による豊かな体験活動の実施</li> <li>・指導委員・研究委員による授業研究（指導形態・指導方法等の実践研究）</li> <li>・市教委等の委嘱による学校課題研究（2年間）</li> <li>・学校教育課・南部教育事務所合同訪問による、各校の教育課程及び教育指導への指導・助言</li> </ul>					
【成果指標】 目標達成度を示す指標です	<b>成果状況/達成度評価</b> 昨年度を大幅に下回る結果（小学校＝64.4％・中学校＝56.0％）となっており、目標値に対しても厳しい状況です。しかし、調査対象の研究委嘱校（小学校4校・中学校1校）が毎年変化し、その学校規模や地域性等の実態があるので、さらに経年比較をすすめていかないと、的確な判断が出来ない部分と考えます。特に、20年度調査校については、学校規模が小さい（単学級の小規模校）ことも、結果が下回った大きな要因と考えられます。					

## 施策に対する総合評価

1. 「学力」「規律ある態度」「体力」等、経年にわたり、高い成果をあげている。これは「学校現場の努力」と「学校教育に対する温かい鴻巣の地域風土」から生じている点は否めない。

今、「学校現場」は家庭教育力の低下や地域コミュニティーの崩壊、保護者意識の変革等、様々な課題と向き合い、「教師の多忙感」は増加の一途と聞く。

今後も、「いきいき先生」をはじめ市単独の人的な支援を強化し、「子どもと教師の向き合う時間」を確保し、子どもたちが楽しく学校生活を送り、学力・体力・基本的生活習慣のさらなる定着を図れるよう努力するとともに、「学校教育に対する温かい鴻巣の地域風土の存続・発展」に力を注がりたい。
2. 「学校ボランティア」については、各学校毎、地域や保護者の方とより密接な関係で進められよい状況にあると思われる。

今後は、「学習指導に関する小・中教科ボランティア」等を市教委が募集・登録、学校の学習指導体制の強化に役立てる等の研究も期待したい。
3. 児童生徒が学校生活を楽しいと感じるならば、学力や体力の向上に結びつき、不登校の割合も必然的に減ると思われる。楽しく学校生活を送れていない児童生徒の割合が高い学校があれば、そこに着目して原因の分析・研究を行い、対策を講じることができることから、アンケートをより多くの学校で実施することを要望する。
4. 校舎の耐震化率については計画的に向上している。厳しい財政状況の中ではあるが、特に古い建物の付帯設備等についても改善を図りたい。

施 策	2 生涯学習の充実					
施策の対象	市民					
施策の意図	知性と豊かな心を育む生涯学習に取り組んでいる市民が増えています。					
成 果 指 標	単 位	初 期 値	19年度	20年度	H23めざそう値	成果状況
生涯学習に取り組んでいる市民の割合	%	42.8	42.7	—	↗	
	20年度の主な取り組み 市民大学講座「こうのとリアカデミー」を前年に引き続き開校。 立教大学公開講座を併設し、受講申込者全員157名を受講生とした。					
(生涯学習課)	成果状況/達成度評価					
【成果指標】 目標達成度を示す指標です	市民の約半数が何らかの形で生涯学習に取り組んでいる状況にありますが、目標値には届いていません。団塊世代の一斉退職による余暇時間の増加が大いに見込まれていることにより、生涯学習事業もより多くの市民が参加できるよう工夫を凝らし、事業の見直しを図る必要があります。					

## 施策に対する総合評価

- 各公民館・図書館が総力を挙げ、各館同士の相互利用の進展や、様々な講座の開設に努力していることは大いに評価されるものである。  
生涯学習の基本は、市民一人一人が、自らのニーズや思いに沿って、生涯にわたり各種の学習や活動を続け、自らの生活を豊かにすることである。  
そのために、各生涯学習機関は、住民の学習や活動ニーズを把握し、それに沿った講座や活動の機会を提供することが重要である。  
今後も、それら住民の学習や活動のニーズの把握に努めるとともに、講座終了後参加者の組織化を図ったり、各種活動の世話をするリーダーの育成を図ったりし、市民の生涯学習参加への道筋を示すことも大切と思われるので、それらの点にも、工夫・努力をお願いしたい。
- 本市の子供会活動は、少子化の影響もあり弱体化しつつある、これは経年、地域の子どもたちの活動を、PTAや学校、スポ少等にゆだね、地域の子どもたちのまとまりとしての活動をリードする指導者・世話役・リーダーの不在が大きな要因と思われる。今後は、育成したジュニアリーダーの活躍の場を、学童保育所や学校応援団等の協力を得てもらうとともに、それを組織化する等の方策も研究に値すると思われる。

施 策	3 スポーツの振興					
施策の対象	市民					
施策の意図	自分に合ったスポーツを見つけ、スポーツに親しむ市民が増えています。					
成 果 指 標	単位	初期値	19年度	20年度	H23めざそう値	成果状況
週1回以上スポーツをする18歳以上の市民の割合  (スポーツ課)	%	26.3	26.7	—	↗	
	20年度の主な取り組み 老若男女問わず、多くの市民にスポーツ教室(11教室)、市民大会(24大会)開催し、スポーツに親しむ場を設けました。					
【成果指標】 目標達成度を示す指標です	成果状況/達成度評価 パンジーマラソン大会の参加者増から判断して、スポーツに親しむ市民は増加しています。特に団塊の世代の、スポーツへの参加が目立ちますが、目標値とは差があると考えます。スポーツ競技への参加者が固定化しているため、新しくスポーツを始める人を増やす環境・機会の提供を推進する必要があります。(ニュースポーツの普及・新規スポーツ教室の開催)					

## 施策に対する総合評価

1. スポーツ課が体協・レク協・スポ少等と連携し、各種スポーツ等の機会の提供や、競技力の向上に努力されていることは、高く評価できる。  
しかしながら、マスメディア発達によるスポーツを観る機会の増大とともに、「スポーツ・運動に親しむ人と、そうでない人」の二極化が進み、スポーツ・運動に親しむ人の固定化が窺える。  
今後は、それらを踏まえ、スポーツ・運動に疎遠な住民にどのような、方策で臨むか、どんなスポーツ・運動の機会を提供するか研究願いたい。  
また、上記のような視点にたつと、市民体育祭等のイベントの持ち方や、より身近な地域自治会単位の簡易スポーツ・運動教室等の開催も研究に値すると思われる。
2. 厳しい財政事情の中、上谷総合公園スポーツ施設の新設や、スポーツ施設の利用予約システムの構築を図るなどの事業展開を行っている点は評価できる。  
市民スポーツの裾野をより広げるためには、特定のスポーツ団体等に加入していなくても、誰もが気軽にスポーツに親しめる機会を等しく享受できるように、スポーツ施設の充実・整備と、利用しやすい環境づくりにより一層努めていただきたい。
3. 合併により旧3地域にあった様々な組織が統合・再編されて地域住民融合の象徴として活動を行っているが、体育協会についても統合され、大会、イベント等も集約を図り、その後、大きな混乱もなく、順調に運営されている点は評価できる。  
しかしながら合併から4年を経過した現在でも、その機運はあるものの、未だに旧地域内を基盤とした活動にとどまっている団体が一部に見受けられることは残念である。もとより、スポーツを愛好する住民が自発的に集まった団体であるので、行政主導でその統合を図ることは適当でないが、本市のスポーツ振興という観点から、スポーツ行政の効率化、合理的な運営を図るためにも、積極的な関与、支援体制を講じられたい。

施 策	4 市民文化の創造と交流の促進
施策の対象	市民・文化団体・伝統芸能・文化財・在住外国人
施策の意図	伝統文化、芸術文化、国際交流など多様な文化に触れ合う機会が増え、市民が心豊かな生活を送っています。

成 果 指 標	単 位	初 期 値	1 9 年 度	2 0 年 度	H23めざそう値	成 果 状 況
多様な文化に触れて、心豊かな生活を送っていると感じている市民の割合  (生涯学習課)	%	24.5	21.3	—	↗	
	<b>20年度の主な取り組み</b> 市民文化財めぐりの開催、文化啓発パンフレットの発行、文化財案内板の設置などにより、文化財の理解を深めると共に、地域の伝統文化に触れる機会を設けました。また、文化財の保存修復、郷土芸能保存団体への支援により、文化財の保護や後継者の育成を図りました。					
【成果指標】 目標達成度を示す指標です	<b>成果状況/達成度評価</b> 大きな変化はないと思われます。引き続き、ゆとりを持ち、心豊かな生活を目指していただくよう啓発をしていきたいと考えています。					

## 施策に対する総合評価

- 各基本事業の成果は、概ね順調に推移しており、継続した事業展開を図られたい。文化財は有形・無形、その大小を問わず、地域の先人たちが培い、残してきた貴重な宝である。さらに一度、失ったものは再生できないことから、その維持、管理だけでなく、広く市民への周知をはかり、郷土の誇りとして感じてもらえるように、恒常的な努力が必要であるといえる。そのためには行政だけでなく、地域住民の協力が不可欠であり、ささらなどの民俗芸能などの後継者育成が図られるよう努めていただきたい。
- 本市には中山道、ひな人形あるいは重要文化財の埴輪など、まちづくり、まちおこしの核となるような歴史的文化資産があるが、その活用に手がついていない現状である。街並みの整備などは教育委員会の守備範囲外ではあるが、文化財や民俗資料などの展示場所の確保も含めて、文化醸成の側面からまちづくりへの関与を図られたい。

施 策	5 人権尊重の推進
施策の対象	市民
施策の意図	お互いの人権を尊重しあい共に生きる社会が形成されています。

成 果 指 標	単 位	初 期 値	1 9 年 度	2 0 年 度	H 2 3 め ざ ぞ う 値	成 果 状 況
人権が尊重されている社会であると思う市民の割合  (やさしさ支援課)	%	46.9	47.2	—	↗	
	<b>20年度の主な取り組み</b> 人権教育指導者養成講座、人権啓発研修会（老人クラブ連合会対象）、吹上ふれあいセンター利用者リーダー研修会等の人権啓発研修会を開催し市民の人権意識の高揚を図りました。 また、市内に3館ある集会所では人権教育推進事業として各種講座を開講し、その講座の開講式、閉講式では、人権に関する講話や人権啓発ビデオの視聴を行い、様々な人権問題に対する理解、認識を深めていただきました。3集会所合同の事業として「ふれあいの旅」を実施し、バスの中では人権に関する講話や人権啓発ビデオの視聴を行い人権問題に対する理解、認識を深めていただきました。また、集会所利用者がお互いのふれあいを通して人権感覚の高揚が図られました。					
【成果指標】 目標達成度を示す指標です	<b>成果状況/達成度評価</b> 過去の推移を見るとあまり変化はないようであるが、今後も引き続き講演会、研修会を実施するとともに啓発方法等も工夫し、より効果の上がる啓発活動を推進する必要があります。					

## 施策に対する総合評価

- 基本事業の成果指標については、概ね順調に推移しており、評価できる。  
従来型地域社会の崩壊、家庭。家族のありかたの変化、個人主義の台頭など、近年、人権の問題は極めて広範多岐にわたり、かつ奥の深い問題であるといえる。このことから教育面だけで語られるものではなく、国、県、市町村、地域、職域などのさまざまな場での取り組みが必要である。人権尊重都市を宣言している市として、人権が尊重されている社会であると感じている市民が100%になるように今後とも着実に継続的な努力をいただきたい。

## 結びに

今回で2度目となる「教育委員会の事務に関する点検・評価」については、冒頭で述べたように地教行法の改正により昨年度より実施しているもので、今後とも検討を加え、より時代に合った適切なものにしていく必要があります。特に、成果指標や目標値については、定期的な見直しや改善が必要となってくるものと思われます。

しかし、教育への取り組みは、事業の実施や予算の投入が直ちに結果となって表れるものばかりではありません。その成果を具体的に数値化することが難しい上に、時間がかかる取り組みも数多くあります。

教育委員会といたしましては、今後とも実証的に成果を検証する観点から、適切な目標値の設定のもと、課題の解決に向けた効果的な教育行政の推進に努めてまいります。

なお、本報告書につきましては、12月定例議会に提出するとともに、教育総務課のホームページにて公表いたします。

今回の教育委員会の事務の点検・評価に当たっては、その客観性を確保するため、次の学識経験者を評価委員として委嘱し、ご意見をいただきました。

いし はら たもつ  
石 原 完 前鴻巣市小・中学校長会長

いえ なか さかん  
家 中 盛 吹上地区町内会長連絡協議会長

いけ さわ たかし  
池 澤 貴 鴻巣市PTA連合会長